

提言書における配慮項目毎の比較について

凡例 3つのルート帯の比較において
 ・優れている
 ・普通
 ・やや劣る

評価項目	配慮の方向性	評 価			備考	
		Aルート案	Bルート案	Cルート案		
求められる機能	走行速度が速い(時間短縮できる)道路	時速60km以上で走行できる計画とする。	設計速度60km/h以上	設計速度60km/h以上	設計速度60km/h以上	
	定時性の高い道路	速度低下が発生しない計画とする。	信号や沿道出入りなし	信号や沿道出入りなし	信号や沿道出入りなし	自動車専用道路
	観光・交流範囲が広がる道路	熊本方面から天草市・苓北町までのアクセス性を高めるため主要道路に接続する計画とする。	3箇所	3箇所	4箇所	
	緊急時における信頼性の高い道路	代替路がない本渡瀬戸区間に道路を新設することで信頼性の高い道路網を実現する計画とする。	本渡瀬戸区間に道路新設	本渡瀬戸区間に道路新設	本渡瀬戸区間に道路新設	
	渋滞しない道路	天草瀬戸大橋や本渡市街地(国道324号)などの渋滞緩和が図れる計画とする。 新たな渋滞が発生しにくい計画とする。	・天草瀬戸大橋・本渡市街地の渋滞は解消する。 ・本渡道路の供用で交通の流れが変わることによる新たな箇所での渋滞は発生しない。 ・天草上島及び下島において、各道路の区間毎の移動に要する時間を本渡道路を整備する前後で比較して算出した総所要時間短縮量は、約71,100台分/日。	・天草瀬戸大橋・本渡市街地の渋滞は解消する。 ・本渡道路の供用で交通の流れが変わることによる新たな箇所での渋滞は発生しない。 ・天草上島及び下島において、各道路の区間毎の移動に要する時間を本渡道路を整備する前後で比較して算出した総所要時間短縮量は約76,400台分/日。	・本渡道路全線整備で天草瀬戸大橋・本渡市街地の渋滞は解消する。但し、起点から本渡瀬戸をまたぐ区間までを整備(第1期整備)した段階では、天草瀬戸大橋に渋滞が残る。 ・本渡道路の供用で交通の流れが変わることによる新たな箇所での渋滞は発生しない。 ・天草上島及び下島において、各道路の区間毎の移動に要する時間を本渡道路を整備する前後で比較して算出した総所要時間短縮量は68,800台分/日。	
地域特性への配慮	まちづくりとの整合	・天草地域のまちづくりと整合のとれる計画とする。 ・天草市の都市機能が集中する本渡市街地にアクセスしやすい計画とする。	・港湾計画との調整が必要。 ・起点が本渡市街地から離れている。	・本渡港にアクセスしやすい。 ・港湾施設や背後の土地利用、港湾計画との調整が必要。 ・本渡市街地に直接アクセスする。	・住居系用途地域を分断する。 ・本渡市街地に直接アクセスする。	
	生活環境への影響	生活環境への影響(住宅・学校・病院等への騒音・振動など)が少ない計画とする。	・病院:0件,学校:2件	・病院:3件,学校:4件	・病院:5件,学校:4件 ・既存の住宅地を通過する。	
	史跡・文化財、神社、寺、墓地などへの影響	史跡・文化財、神社、寺、墓地などへの影響が少ない計画とする。	史跡・文化財・神社・寺・墓地 : 5件	史跡・文化財・神社・寺・墓地 : 4件	史跡・文化財・神社・寺・墓地 : 14件	
	自然環境への影響	・貴重な動物・植物への影響が少ない計画とする。 ・本渡干潟への影響が少ない計画とする。 ・山間部の構造物などは地すべり地帯に影響が少ない計画とする。 ・良好な景観を保全できる計画とする。	・本渡干潟を通過する。 ・上島で地すべり危険箇所を通過する。 ・景観を保全する地域である本渡港周辺地域を通過する。	・上島側でルート帯の端部に本渡干潟の区域が入っているが、本渡干潟を通過しないルート設定が可能。 ・上島で地すべり危険箇所を通過する。 ・景観を保全する地域である本渡港周辺地域を通過する。	・本渡干潟を通過しない。 ・上島及び下島で地すべり危険箇所を通過する。 ・下島で切土・盛土による大規模な地形改変が必要となる可能性がある。	各ルート帯とも貴重種生息地帯を通過しない。
社会的視点・事業性	事業費・維持管理費の低減	事業費・維持管理費の低減が図れる計画とする。	・事業費 : 310億円 ・維持管理費: 0.7億円/年	・事業費 : 260億円 ・維持管理費: 0.7億円/年	・事業費 : 320億円 ・維持管理費: 1.7億円/年	
	早期整備・供用	早期に緊急時の信頼性の確保や天草瀬戸大橋の渋滞解消が図れる計画とする。	第1期事業費: 220億円	第1期事業費: 130億円	第1期事業費: 190億円	
	事業の効率性(費用対効果)	便益が費用を上回る計画とする。	B/C = 1.0	B/C = 1.3	B/C = 1.1	

事業費、維持管理費及びB/Cは、A～Cの3つのルート帯を相対比較するための概数であり、今後詳細に調査設計を進める中で精度を上げていくものである。